

hgu_LAB. MAGAZINE

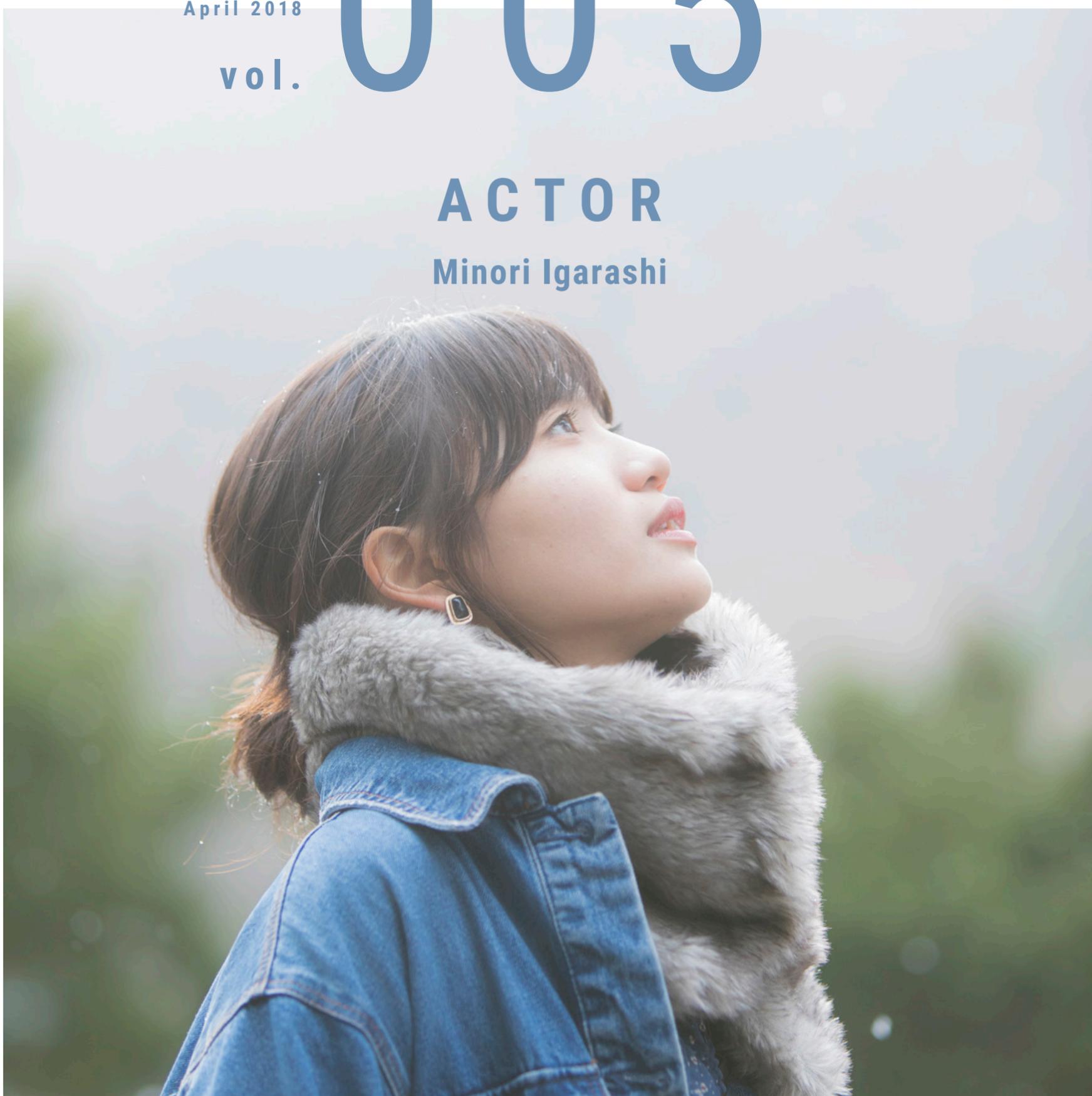
April 2018

vol.

005

ACTOR

Minori Igarashi



HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

All the world's a stage. And all the men and women merely players.

from "As You Like It" by William Shakespeare

Minori Igarashi

五十嵐 穂

北海学園大学 経営学部 1部
経営情報学科 4年（取材時3年）
北海道千歳高等学校出身

千歳市生まれ。本学の演劇研究会では役者、そして会長としても活躍。学外の劇団への客演も含め、在学中に数多くの作品に出演。3年次には、札幌演劇シーズン2017夏で上演された劇団パインソーの『extreme+logic(s)』や、演劇研究会の第64回定期公演『エンディングノート』などの舞台でさまざまな役を演じた。



いろんな人になりたい。 なりたくない人はいない、たぶん(笑)

学校で友だちと接する自分と、家族の中にいる自分。
間違いなく自分は自分だけど、どこか違う自分でもあるような？
「この世は舞台、人はみな役者だ」
かのシェイクスピアが、喜劇『お気に召すまま』で生んだ名台詞です。
このフレーズがお気に入りだという五十嵐さん、『五十嵐 穂』という舞台は、
いったいどんなストーリーなのでしょう。
教えてください、お気に召すまま。

舞台裏にもドラマがいっぱい

— 12月の定期公演、おつかれさまでした！
ありがとうございます！ 演劇研究会はみんな3年生で引退なんです。なので、私にとっては最後の定期公演でしたが、なんとかやり遂げることができました。

— まず、演劇研究会について少し教えてください。
演研は北海学園大学の文化系サークルで、今は70名ほどのメンバーがいます。先輩で有名なのはやはり、チームナックスさんですね。公演は年3回あって、まず春公演、1・2年生だけで取り組む新人公演、そしてその年の集大成となる定期公演という感じです。

— 今回の定期公演は2つの演目がありましたね。
はい、2つのチームに分かれて、それぞれ3ステージやりました。定期公演はこのかたちが定番ですね。

— チームはどうやって分けるんですか？
まず、脚本・演出のオーディションをします。脚本を書きたい人が原案をプレゼンして、全員の投票で2本を決めます。で、脚本を選ばれた2人が、今度は役者のオーディションを行うという流れで2チームが出来上がる感じですね。そこで役者に選ばれなかった人は、照明や音響などのスタッフとしてがんばります。

— 会長の五十嵐さんも、脚本・演出の人によるオーディションを受けるんですか？
もちろん(笑)。役職とか学年とかは一切関係なく。私はありがたいことに最後の定期公演で演じることができました。役者の発表は、LINEで一斉送信されるんですが、その日はみんなドキドキですね。

— オーディションは役別に行うんですか？
まず、一人ひとりがすべての役を演じてみます。それを終えてから、各自のやりたい役を脚本担当に伝えるんですが、「なんでもやります」という人もいて、私もその1人です。今回いただいた役は、私にとって初めてのタイプ。あまり喋らず、動かず、シリアスな雰囲気、演技の幅が広がるいい経験になりました。

— 今回は本番前のゲネプロ(最終リハーサル)を見せてもらったんですが、たしかにシリアスでしたね。
いやー、ホントしんどかったです(笑)。演技とはいえ、泣いたり、落ち込んだりしているとやっぱりメンタルにくるといいますか。あと今回、私たちのチームはかなり追い込まれていたの。

— ゲネプロ後、涙のスタッフさんもいました。
そうでしたね。劇場に入って、ゲネの前に通し稽古をしたんですが、なんかよくないねという話になり、まだ時間があるから調整しようと。それで役者の出ハケ(入退場)を変えたため、照明もまったく違うものになってしまっ。泣いてしまった子は、1年生の照明スタッフだったんですが、本当に申し訳ないことをしました。でも、本番ではうまくいったんですよ。みんな苦しみながら、最後の最後まで変更を加えた公演だったので、その分達成感も大きかったですね。

クラスの子を好きになるワケ

— 通常はどのくらいの期間で準備をするんですか？
2か月ぐらいです。その間は毎日、学内で稽古ですね。平日は放課後22時まで、週末は10時から16時まで。

週末の稽古を終えてからバイトに行ったりして、さらにそれがテスト期間の場合は勉強もしないといけないので、てんやわんやな感じですね(笑)

— 勉強といえば、とくに関心のある分野は？
心理学です。そもそも心理学を学びたくて、経営情報学科を選んだほどですから。道内の経営学系の学科では珍しく、心理学を専攻できるんですよ。さらに演研の活動も充実していると聞き、北海学園大学しかないだろうと。本当に受かってよかったです(笑)

— 心理学のどの辺りにおもしろさをもつ？
普段あまり意識することのない知覚や感覚、それらと脳の関係やしくみがわかって、人間ってすごい！ってなります。そういうことに自覚的かどうかで、毎日の暮らしがけっこう変わる気がするんですよ。

— 心理学と日常生活の結びつき、具体的には？
たとえば、セルフハンディキャッピングといって、結果に対して自分が傷つかないように、保険をかけておこうような振る舞いとか。テスト前に「私、全然勉強してないんだよねー」と言ってしまうたり、マラソンを走る前に「今日はちょっと足が痛くてー」とか。そういうのあるわーって感じで(笑)。あと、会う回数が多いほど、その人に対して好意をもつようになりやすいとか。だからみんな、クラスの子を好きになるんだ、みたいな(笑)。自分たちの行動パターンが心理学的に説明されるのがおもしろいですね。

五十嵐穂ファンクラブ

五十嵐 尊敬する人って誰だろうと考えたときに、女優さんなども思い浮かべましたが、やっぱり両親だと思いました。「好きなことをやりなさい」といつも言ってくれたからこそ、今の私がいるのかなと。
母 うちは5人家族なんです。この子には兄が2人います。まあ、みんなそれぞれ自由奔放というか、勝手気ままではありますね(笑)
父 かわいい子には旅をさせよという感じで、兄2人にはあえて道外の大学を勧めて、彼らは高知と島根の大学を選びました。この子にも最初は道外に行ってほしい気持ちがありましたけれど、でも北海学園大学さんに拾ってもらって本当にありがたいですよ。

— 演劇をやることに関してご両親は？
五十嵐 ものすごく応援してくれています。大学で演劇を始めてからすべての公演を2人で観に来てくれて。
母 そういえば、小学6年生のときの学芸発表会も2人で観たんですよ。そうしたらお父さんが隣りで泣き出しちゃって、びっくり(笑)
父 すごくいい子の役を演じていたから。こんなにいい子に育てたつもりはないと思うほどいい子で(笑)
— 今後、娘さんに望むことはありますか？
父 大学進学も本人が決めたことだし、現在までは自分がやりたいように進んできているので、今後も進みたい道があるのであれば、それを後押ししてあげたいと思っています。
母 そうですね。どんな道であれ、しっかり自立してくれればいいかなと思います。

父 そして、最後に一言いいですか。私がこの子のファンクラブの会員ナンバー1番ですから！
五十嵐 やめてー！(笑)

Shogo Igarashi

五十嵐 正悟さん(父)

Hiromi Igarashi

五十嵐 博美さん(母)

MY FAVORITE MENTOR





ACTOR | MINORI IGARASHI
HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

初舞台でのカタルシス

——ゼミでも心理学を？

はい、田村卓哉先生(下段)のゼミで楽しく心理学の学びを深めています。いまは心理学と演劇の関係性についてまとめたくて、いろいろ調べている段階です。

——おもしろそうですね。

たとえば、どうして人はわざわざ悲劇に感情移入をして涙を流すのか。そうすることによって、普段抑え込まれている感情を外に出し、心を浄化していると。それをカタルシスと呼ぶんですが、その辺りを役者としての体験も踏まえてまとめてみたいと思っています。

——ところで、演劇はいつ始めたんですか？

大学からなんです。それまでは中学校、高校とテニス部で、高校のときは部長でした。今は演研の会長ですが、そういうのをやらされがちなんです(笑)。テニスはかなり真剣にやっていたので、日焼けして真っ黒、しかも筋肉もついていたので、友だちからは「馬みたい」って言われてました(笑)

——それがどうして大学から演劇に？

じつは密かに、昔から興味があったんです。小さいころから母が演劇やミュージカルに連れていって来て、観るのはすごく好きでした。そして、小学6年生の学芸発表会が大きなポイントでしたね。その演目が、私が大好きな劇団四季の『夢から醒めた夢』だと知って、出てみたい!と思ったんですけど、いやでも無理みたいな。人前に出るのが苦手だったので…。

——えっ？

いや、本当に(笑)。今もそうなんですけど、実はかなりチキン、小心者なんです。でも、そのときに学芸会を担当していた先生から「主役のオーディションを受けてみない?」と勧められたんです。兄に相談したら、「やってみなよ」と背中を押してくれて。それでオーディションを受け、主役をやることになってしまいました…。でも、いざ舞台に立つと、なにこれめっちゃ楽しい!!と(笑)。そこから演じることに興味をもったものの、中学校には演劇部がなく、どこかの劇団に入るまでの勇気もなくて、テニスを始めたんです。

——でも、ずっと頭の片隅に演劇への思いが。

そうそう(笑)。それで、大学のサークルから始めてみるのがいいんじゃないかなと。舞台系の専門学校という選択肢も頭をよぎりましたが、将来の幅を狭めてしまうのも怖かったです。なにせチキンですから(笑)。で、大学のサークルで活動が充実しているところを高校時代の先輩に聞いたりして、北海学園大学が自分には合っているんじゃないかと思ったんです。

この先のストーリー展開は？

——というわけで大学時代は演劇に没頭してきたわけですが、役者のどんなところに魅力を？

いろんな人になれることですね。もちろん舞台上の演技ではあるんですけど、実際にその人になるつもりでやっているんです。たとえば、こういう状況に陥ったら、こういう感情になるんだとか、自分が経験したことのないことを擬似的にでも体験できるのもおもしろ

いと思いますね。いろんな芝居があって、いろんな役があるから、いつも新しい発見だらけです。

——絶対NGな役はありますか？

いや、ないです、たぶん(笑)。思いつかないな。なんでもできる役者にはなりたいですね。

——演研は3年生で引退となりますが、今後もお芝居を続けていくんですか？

そうですね。これまでも演研の活動と並行して、学外の劇団の公演に参加してきましたが、今後オファーをいただければぜひ出演したいです。

——それは大学卒業後も同じように？

それが大きな問題なんです(笑)。完全に辞めようと思った時期もあるんですが、今は働きながら演劇も続けていきたいと思っています。札幌でやる以上、演劇だけで食べていくのはほぼ不可能ですから。

——チームナックスになるのは難しい？

やっぱり難しいですね。チームナックスが好きで演研に入ってくる1年生もいますけど、あんな感じになれることはないからねと釘を刺してます(笑)

——東京に行くという選択肢はないんですか？

んー、まだ演劇を始めて3年しか経っていないので、まずは札幌で場数を踏むことが大切かなと思っています。先輩からも「もしも東京に行くのなら、札幌である程度認められてからにしろ」と言われたことがあります。いつか行けたらいいなという思いもありますけど、しばらくは札幌でたくさんの芝居に出たいですね。ということでオファー、お待ちしております(笑)

My Favorite Teacher

即興劇みたいなゼミで学んでいる、心のこと

——まず、おふたりの関係性を教えてください。

五十嵐 田村先生は心理学がご専門で、私は2年生から先生のゼミに入って、講義もこれまでに「心的情報処理論」と「適応の心理学」の2つを受けました。

田村 五十嵐さんは「非常に優秀!」とまでは言えませんが(笑)、いくつもの舞台上に上がりながら、しっかり単位を取っていることは評価すべきですね。

五十嵐 講義中にウトウトしようものなら、先生からすかさずマイク越しに突っ込まれます。「あの子は演劇研究会の五十嵐さん。来週に本番を控えていますので、みなさんぜひチケットを買ってあげてください」みたいな感じで(笑)。ホント恥ずかしいです。

田村 宣伝してあげているんですよ(笑)

五十嵐 でも先生のゼミや講義での学びは、演劇にもすごくつながっているんです。昔から占いや心理テストが好きで、大学では心理学を勉強してみたいと思っていたんですが、まさか演じることにここまで役立ちたいとは思いませんでした。たとえば、身体に障がいのある方の心理とか。そのような役をいただいたときに、感覚や気持ちを少しでも理解したうえで演じられると、リアリティが全然違うと思うんです。

田村 心理学や思想の世界では今、「身体」というキーワードの存在感が増しているんです。人間には心があるとして、その外に自分ではない世界が広がっている。身体は心と世界をつなぐインターフェイスなん

です。20世紀前半の心理学は「行動」がキーワードでした。心は見えないから、行動を通して心を調べるとい時代。20世紀後半になると、コンピュータが発達したこともあり、逆に「頭の中」の認知過程をシミュレーションして心を捉えようとした。振り子でいうと逆に振れたんです。それが今、もう一度、外の世界との関係で心を考えるという流れが来て、インターフェイスとしての身体が注目されはじめています。

——なかでも五十嵐さんが印象に残っている学びは？

五十嵐 たとえば、目が見えない人の感覚について教えていただきました。

田村 そのような方が障害物に近づくと、ぶつかると前に額に圧迫感を感じたりするようです。それで額や顔面に未知の障害物センサーのような感覚器があるのではないかと真剣に検討された時期もありました。結果的にはそんなものではなくて、足音など反響音の変化を手がかりにして障害物を察知しているようです。

五十嵐 というようなことを知っているかどうかで、演技の質はかなり変わってくると思うんですね。

田村 ゼミで鑑賞した映画『レナードの朝』に患者役で出演したロバート・デニー口も、役づくりのために病院に通ったようですね。ところで、ある心理学者が口承文芸の語り部について調べたんです。何時間もかけて詩を語る様子を何度か録音して比べたら、毎回細部が違うと。でも、われわれの記憶はあらすじのようなものを軸に構成されているから、聴衆は違いに気づかないんですね。芝居の台詞は、毎回同じなの？

五十嵐 その舞台のタイプや演出家にもよりますし、役者によっても違いますね。毎回同じようにやろうとする舞台もあれば、役者の自由な発想を活かしたアドリブを多用する舞台もあります。ただ、映画は一度完成したらそれ以上変わりようがないです

けど、舞台はどんなに同じにしようとしても、1回目と千秋楽ではやっぱり違います。それが舞台の魅力のひとつかなと。

田村 台本の基本は変わらなくても、役者同士の化学反応みたいなものが積み重なって変化が起こっていく。それこそ「適応」だよ。僕の授業に「適応の心理学」というのがありますが、人はさまざまな経験を通じて自分を環境に適応させていこうとする。五十嵐さんも、大学でいろんな経験を積むなかで考え方が変わっていくと思うけれど、その一方で自分らしさというのも大事にしてほしいなと思います。

五十嵐 はい、ありがとうございます。ゼミの研究もがんばります。

田村 そういえばうちのゼミは毎週、台本のない即興劇みたいな感じだな(笑)

Takuya Tamura

田村 卓哉

経営学部
経営情報学科
教授



My Favorite Place



札幌市円山動物園

札幌市中央区宮ヶ丘3番地1
011-621-1426

3~10月/9:30~16:30(最終入園16:00)
11~2月/9:30~16:00(最終入園15:30)

休園日

- ・毎月第2・4水曜日(祝日の場合は翌日)
- ・4月第2週の月~金曜日
- ・11月第2週の月~金曜日
- ・12月29日~31日

※2018年2月現在

大学から30分で行ける非日常。 年パスがお得ですよ！

円山動物園はけっこう来ます。去年から年間パスポートを買いはじめて。1日の入園料が600円なのに、年パスは1,000円。2回行けば元が取れちゃうので、年パスを買ったほうがお得ですよ、みなさん(笑)。大学からは地下鉄と徒歩で30分ぐらいでしょうか。そんなに遠くないのに、非日常的な空間にふらっと行ける感じが好きですね。友だちとも来ますけど、基本は1人です。「明日は動物園に行こう!」という感じではなく、たまたま時間が空いたときに「あ、今から行こう」みたいな。演劇の稽古とか、学校とか、バイトとか、いろいろ重なって忙しいときほど来たくなりますね。とくに見たい動物がいるわけでもないんです。園内をぐるーっとお散歩しながらリセットされていく感じがいいんだと思います。でもレッサーパンダはかわいい。めちゃくちゃ。けっこう寝てる動物もいますけど、レッサーパンダはわりと動いてるんですよ。あ、いたいたいた。ほらほら。ね。めっちゃかわいいー。かわいいなー。かわいっ。なーに考えてんだろ。いいなー。

My Favorite Things



リトルマーメイド ミュージカル
劇団四季
WALT DISNEY RECORDS

劇団四季の公演には、小さいときからよく連れていってもらいました。『リトルマーメイド』のミュージカルを観たのは大学1年生のとき。最初はちょっとミーハーな内容なんじゃないかと思って乗り気じゃなかったんですが、いざ観に行くと、すごい泣けて、めっちゃ感動したんです。CDにはポップな曲も多く収録されているので、テンションを上げたいときによく聴いています。というか、それが家の中であれば、思いっきり大きな声で一緒に歌っています。家族からの苦情は今のところありません(笑)



クラッシュのぬいぐるみ
DISNEY

クラッシュは『ファインディング・ニモ』に登場する亀のキャラクターです。母と毎年、東京に舞台を観に行くんですが、あわせてディズニーに行くのも恒例なんです。これはある年に母に買ってもらったもので、みんながあまり持ってなさそうなところが気に入ってます(笑)



キャップ
GUESS

ビンテージものが好きで、このキャップもそうなんです。クタクタした感じがカッコいいなと。お芝居の稽古をすると髪も乱れるので、その帰りに被ることが多いです。札幌市内の古着屋さんとかビンテージ系のお店を巡っては、気に入ったものを買っています。



アオハライド
咲坂伊緒
集英社

咲坂伊緒さんの前作『ストロボ・エッジ』という漫画もめちゃくちゃ衝撃的におもしろかったんですが、私のなかではそれを超えてきた名作。やさしくてイケメンという定番キャラとは違う主人公の男の子がいいんです。日常生活に足りないトキメキをこれで補っています(笑)



龍角散ののどすっきり飴
龍角散

ある公演でのどを枯らしてしまってから手放せなくなりました。常に持ち歩いて、絶対に切らせることはないですね。稽古の合間とか、ちょっとのどが調子が悪いと思ったら舐めてスッキリ。世の中にはいろんなのど飴がありますが、結局これに落ち着きました。



ダンスシューズ
sylvia

以前に一度だけミュージカルに出演させていただいたことがあって、その際にバレエ・ダンス用品の専門店シルビアで買いました。つま先とかかかとにしかソールがなくて、本当にめちゃくちゃ動きやすいんですよ。今は演劇の稽古用に使っています。



泥団子
Minori Igarashi

幼稚園のころから友だちや兄とよく泥団子を作っていて、1~2時間かけて表面がピカピカになるまで磨きあげるのが気持ちいいですよ(笑)。これは大学の近所にある公園に友だちを連れていって作りました。ちびっ子たちに「すごーい!」って言われながら(笑)



G-SHOCK
MHL

G-SHOCKとMHLのコラボもの。大学生になったばかりのころに買って、今までずっと使いつづけています。ほかの時計も持っていたんですけど、なくしてしまいました(笑)。これは水にも強いし、衝撃にも強いので、稽古のときも付けっ放しですごく便利です。



よくわかる産業・組織心理学
山口裕幸・金井篤子編
ミネルヴァ書房

「組織心理」という授業で使った教科書です。会社、アルバイト、サークルなど、さまざまな集団におけるモチベーションの上げ方や、陥りやすい問題点など、さまざまな場面で活かせる学びでした。私は演劇研究会の会長でもあるので、とても興味深い講義でした。